

栽培期間を短縮する

甘蔗の株出栽培



最近臺灣では、農民が甘蔗栽培を嫌つて他の作物に轉向する事が大きな農業問題とされて...

甘蔗の株出(或は宿根)と云ふのは、收穫後ただちに古株を、鋭利な刀または鋏で二二三寸の高さに切つて新株を發生させる方法で、この栽培法によると甘蔗の生育期間が僅に十二個月で、新植による十八個月の生育期間と比較して約半年も短縮でき、收穫は新植の七・八割を得る事ができます。

(一) 開根と切株 株出しに重要な仕事は、甘蔗の收穫後、ただちに開根と切株の仕事を開始する事です。開根と云ふのは、犁または鋏で蔗株の兩側を切り開く事で、その場合には切開する距離と深さに注意しないと將來の生育に悪影響があります。その距離は、蔗株から一・二寸離れた地點にし、蔗根を切断しないように、深さは三・四寸で充分です。

切株、即ち古株を切る時には、鋭利な刀を使用して、傷のつかない様に平に切ります。その高さは莖部から二・三寸離れた箇所を切断するのが良いとされています。(中文の圖参照)

なほ、特に注意すべき事は、開根切株の時期は甘蔗收穫後に直ちに行ふべきです。そうでないと、早くも根部から新芽が發生し、その後に切株を行ふ事は非常に不利で、收量が減少する原因となります。

(二) 補植 株出をする中には成長をしない株があります。これを缺株と云つて補植する必要があります。補植はなるべく早く行ふ事です。と云ふのは、甘蔗株出しは一般に萌芽成長が迅速なもので、補植した苗が未だ發芽しないうちに、周囲の株は既に高く繁茂して、このため補植は充分な日光を吸收できず、壓倒されてしまうのです。この點を解決するために良

い補植法としては、新しい株を補植せずに、近くの株の半分を根と共に切り取つて、缺株の場所に補植するのです。この方法によれば、成長が平均して良い結果が得られます。(中文の圖参照)

(三) 灌水 灌水も乾燥した地區では非常に重要で、第一回は新植甘蔗收穫直後に灌水して、根帯と新芽の成長を促進させると同時に、これによつて地下に潜伏した害虫を殺死します。第二回は分藥後(切株をしてから約半個月後)に行ひます。この後にも乾燥した時に灌水できれば、成長に良い事はもちろんです。なほ、灌水の便が悪い地方では、水分保持のために、土地を蔗葉で覆ふべきですが、株の基層部近くに厚く覆蓋しすぎると、萌芽が遅れますから、注意が必要です。

(四) 施肥 甘蔗の株出しは萌芽が迅速なので、新植の場合よりも肥料の需要が一・二割大きいとされています。施肥法は開根・切株の時に窒素肥料の三分の二と磷・加里肥の全量を、株元の兩邊に施し、覆土をします。次に有機質肥料も大切で、特に太陽麻の如き綠肥を間作する事は有機質増進に有効です。なほ、第二回の施肥は五月頃に行つて、雨季前に終へる様になります。

(五) 病蟲害防治 甘蔗の株出しは、新植の場合よりも病蟲害が多いとされています。これは、甘蔗の收穫後に、多くの病菌・害虫が、残つた株間に残留して害をするからです。病害で多いのは葉燒病、嵌紋病、枯條病等で、害虫では蔗龜、金針蟲などです。病害の防治法として最も確實なのは、早いうちに蔗園を検査して病株を焼き捨てる事です。特に葉燒病、嵌紋病は害が大きいから、甘蔗を收穫して株出しを開始する前に、嚴重に蔗園を検査して、少しでも病害の疑はしい株は、掘出して焼いてしまします。株出しの蔗園には、地下に潜伏する害虫が特に多いので、驅除を徹底的に行ふ必要があります。薬剤としてはBHCが最も廣く使用され、開根のときに施肥すると同時に、兩邊の蔗溝に施します。BHCを散布する時には、廣い面積に平均に散布し、毎公頃について一〇〇―一三〇ポンド(有効成分百分の一のもの)を使用すれば充分です。なほ、殺蟲剤の散布は二・三回に分けて行つた方が効果的です。

農家の借金を調査

農復會では民國四十一年末に、農業關係各機關の協力で、農家の借款狀況を調査したが、それによつて面白い結果が出て

いる。調査の對象となつた農家は、宜蘭、臺北、桃園、高雄、屏東各縣の自耕農で、計四三九戸であつた。この調査によると、四三九戸のうち二七一戸(百分の六九・四九)が實際に借金をして居り、その金額は耕地面積一甲地について、現金に計算して平均約幣一〇八九・六元の借金をしている。そして、最も借金を必要とする時期は第一期稻作收穫後より第二期作の種植までの七十日間で、この間に借金をしたものが全體の百分の三十を估めている。借金の期限は六個月以内が多く、利率は月息三分以下が僅に百分の二八、三分以上が大部分で百分の七三となつている。借金の用途としては、約百分の四三が農業經營用に、百分の四四が婚葬、拜拜、生活費等に使用し、残り百分の十二が返済、納税等に使用している。そして、面白い事には、一甲以下の小農は借金の多くを生活費に當て、また高雄區方面の大農は借りの金の大部分を婚葬、拜拜の費用に使つて居る事である。

# 養鶏の基礎的知識

養鶏と云つても、鶏は肉用、産卵用、卵肉兼用の三種に區別され、飼育の方法や習性が各々異なります。したがつて、養鶏を始めるには、まず、自家の勞力、物力、環境の諸點を充分に考慮してから、それに適した種類の鶏を選んで飼育すべきです。次に参考になる點を述べてみませう。

(一) 人力、物力が充分で、空地が広い場合には、數種の鶏を數多く飼育するのも面白い事です。然し、環境や經濟が許さない場合には、無理をしないで、少數の優秀鶏を飼育する事から開始した方が安全です。

(二) 都會の住宅地、或は狭い空地で養鶏をする場合には、レグホンの如き優秀産卵鶏を數對飼ふ事をすすめます。これは、レグホンは飼料が少なくてすみ、また動作が活潑なので、狭い場所でも運動が適當に行はれるからです。このほかに、卵肉兼用のロイドやプリマウスを飼育するのも利益が多く、第一年の産卵量は普通のレグホンより多い

位です。  
(三) 濕氣の多い場所は養鶏に不適です。この様な場所では養鶏をしても、發育、産卵が悪く、少しも利益にならないばかりでなく、時には病害のために鶏が全滅して大損害をします。

## 種 卵

過大、過小な卵は、孵化率が悪いので、種卵用としては使用しない事です。理想的な種卵は形状が正常で、重量も標準のものを選ぶ事です。そして、氣温の高い時には、種卵を採取してから、十日間以上も放置しない事です。種卵を置く時には、卵の兩端の大きい方を上にし、小さい方を下に向けて置く様に工夫すべきで、水平に置く時には毎日一回、卵を動揺させます。なほ、氣温の高い時には、孵化率が悪く、孵化した雛(ヒナ)も成長が不良ですから、夏季には孵化をしない方が安全です。また卵の殻の薄いものは、孵化中に母鶏に踏み破られる恐れがあるので、これも種卵として使用を避けま

す。  
本省で雛、すなわちヒヨコを飼育するには、春季と秋季が良く、冬でも保温に注意す

## 飼育上の注意

### 雛の飼育

本省で雛、すなわちヒヨコを飼育するには、春季と秋季が良く、冬でも保温に注意す

れば困難がありません。六、七、八、九の四個月は臺灣では氣温が非常に高いので、雛の食慾が衰へて成長が遅れる傾向があります。

雛を育てる時、一箱に何匹位が適當であるか。これは箱にもよりますが、普通に二ダース入りの鳳梨箱に六―八匹の初生雛が適當です。一箱内に餘り多くを飼育すると、運動の餘地が無いばかりでなく、傳染病發生の機會も多くなります。

雛飼育の温度は、一般に考へられてゐる様に高温すぎても却つて雛を弱くして、結果が良くないものです。然し、實際に寒冷な時には、燈光で初生雛を保温する必要があるりますが、その時にはボール紙で電燈の傘を作ると保温の効果があがり、また白光の電球よりも有色電球の方が雛の睡眠を阻害しません。

なほ、雛の飼料は普通の蛋白質飼料のほかに、消化作用を助けるために、鉄(フスマ)が特に大切です。青餌(蔬菜類)は雛の出生後十日―十四日頃から開始して、軟なものを選んで給へます。このほかに、少量の魚肝油を飼料と混ぜて給へると發育に良いとされています。

### 飼料

給餌の方法は人によつて異なり、或る人は粒餌を主にし、或る人は粉餌、他の人は粒・粉餌

を混合する等、種々な方法があります。然し、いずれの方法によつても、右の諸點は特に注意すべきです。

① 混合飼料の場合には、混合された各種の飼料の大小が平均してゐる事です。即ち、鶏は粒餌を好む性質があるので、粒粉が混合してゐる時には、粒餌のみを先きに食べ、粉餌を残す傾向があるからです。

② 成鶏の飼料としては、蛋白質飼料のうち、動物性の蛋白質を三分の一から半分を含むべきです。そして、冬季の飼料としては、花生粕、魚屑の如き脂肪質飼料を多く給へ、夏季にはこれを少くします。

③ 混合飼料には、なるべく多くの飼料を混合すること、これは雜食するほど鶏の營養が完全になるからです。

④ 夏季には卵殻が薄くなる傾向があるので、飼料中に貝粉や骨粉を多くします。また、夏は鶏の食慾が減退するので、粒餌を使用した方が鶏の食慾を促進します。このほかに粒餌は、水分の吸収が少いので、比較的長時間保存しても腐敗しない利點があります。

⑤ 青飼(蔬菜類)の給り量は一般に乾飼料の三分の一ですが、農村の如く雜草の多い場所では放飼する時には、特別に給へる必要がありません。なほ、夏季には青餌を特別に多くして、全乾飼料の二分の一までに増加する必要があります。また、換羽期、或は産卵期になると、母鶏の中には、一時的に食慾が減少するものがありますが、これに對しては韭、葱、辣椒等の刺激性の蔬菜類を給へると効果が

## 不良鶏の淘汰

最後に本省の養鶏家に特に注意したい事は、發育や産卵成績の悪い鶏は、ドンク淘汰してしまふ事です。飼料が高い今日、この様な不良鶏を何時まで飼育しても、費用と勞力を浪費して損をするばかりでなく、時には傳染病の原因ともなります。故に、常に鶏群を注意して觀察し、動作に元氣のないもの、食慾が旺盛でないもの、發育の不良なもの、思ひ切つて殺した方が結局有利です。産卵期の場合には、産卵開始期の遅いもの、一年の産卵數が一八〇個以下のもの(卵肉兼用のものは一五〇個以下)、換羽期が早く、その期間の長いもの等は、産卵鶏として不良



な證據ですから殺す事をすすめま